

JACS NEWSLETTER

日本消費者行動研究学会ニュースレター

第17巻第2号

発行日●2009年10月5日

発行●日本消費者行動研究学会事務局

第39回 消費者行動研究コンファレンスの概要

<統一論題>

インターネットにおける消費者行動

秋の消費者行動研究コンファレンスの開催日程が決定しましたので、ご案内いたします。

第1日目には、基調講演、招待講演やシンポジウム、会員総会、懇親会を予定しています。第2日目には、自由論題報告を予定しています。

—開催概要—

- 開催日程: 2009年10月31日(土)・11月1日(日)
- 会場: 広島経済大学(広島市)
- 研究会参加費: 4,000円[学生:2,000円]
※非会員の学生は、会場受付にて学生証の提示が必要になります。
- 懇親会参加費: 5,000円(ANAクラウンプラザ広島)
- 昼食弁当: 1,000円
両日とも昼食弁当の申込を承ります。参加申込時に一緒にお申し込みください。
会場近辺に昼食をとれる場所が限られますので、お申込みされることをお勧めします。
- 参加申込: JACS Web サイト(<http://www.jacs.gr.jp/>)、ハガキ、FAXで受け付けております。
- 参加申込締切: 10月23日(金)必着

[第1日目]

- 10:25 - 10:30 開会の辞
- 10:30 - 12:00 統一論題・招待講演
- 13:30 - 15:10 JACS-SPSS論文プロポーザル賞
- 15:30 - 16:30 基調講演
- 16:30 - 17:45 シンポジウム
- 17:45 - 18:45 会員総会
- 19:15 - 懇親会

[第2日目]

- 10:00 - 12:00 自由論題研究報告 I
- 13:00 - 14:30 自由論題研究報告 II
- 14:30 - 14:35 閉会の辞

—統一論題—

「インターネットにおける消費者の行動」が意味するもの

山本昭二（関西学院大学）

インターネットが一般に広く利用されるようになってから15年近い日時が流れた。その間にインターネットの普及率は急速に進み、通信利用動向調査では国内の利用者率は75%を超えており、各家庭への回線のうち、73.4%がブロードバンドとなっている。これは、インターネットが生活の一部として利用され繋がらない生活が想像しにくくなっていることを示している。

消費者がモノを買ったりサービスを受けたりする活動の中で、インターネットはメディアとしてチャネルとして重要な役割を果たしてきている。消費者行動の立場からは、e-commerceなど新たなチャネルと消費行動の関係について研究が行われてきた。インターネットは、もっぱら商品の情報源、広告媒体、口コミの経路、プロモーション手段などとして捉えられてきた。

営利目的からはその様に捉えられてきたインターネットだが、生活者の立場からはインターネットを使って何が出来るからインターネットが有る生活がどの様に消費を変えるのかという生活基盤としての役割が明確になってきている。こうした傾向は研究の内容にも現れてきており、最近のJCRに発表された論文を見ても、「オンラインでのギャンブル」、「個人のウェブサイトでの自己表現」、「PtoPにおける社会資本の生産」など必ずしも従来の情報処理モデルやマーケティングに関わるものばかりではなくなっている。

インターネットに関わる研究だけではなく、全ての消費者行動を考える時にそこにインターネットが有ることでどの様な影響があるだろうかと考えることが重要になってきていると言えるのかもしれない。

インターネットの普及に従って、ネットとリアルの間の垣根はどんどん無くなってき

ている。実際にインターネットで手に入るコンテンツは飛躍的に増大し、情報化できるものなら何でもコンテンツとなりうることを示している。新聞、音楽、映画、ゲーム、宿題の答え、風景、座席の予約などあらゆるものが「情報化」されインターネットで流通する。音楽のように情報化が進んでくるとCDを購入したことがないという消費者も現れてくるだろう。

流通するものには、商品もあれば個人的な情報もあるが、その境も一気に曖昧なものになっている。個人のブログが多くの視聴を集めたり、タレントの個人サイトがファンとの接点として重要な役割を果たしたり、などといったことが頻繁に見られるようになってきている。企業側も有力なブロガーを新製品の開発に利用するといったことも起こっている。

そこで、消費者がインターネットによってどう変わっていくのかを原点に帰って「インターネットのメディアとしての可能性」と「コミュニケーション・ツールとしての可能性」を少し企業の営利活動との関係から離れて考えてみようと言うのが今回のテーマとなっている。

コンファレンスの初日には、『ネットが変える消費者行動』の著者としても知られている、明治学院大学の宮田加久子教授に基調講演をお願いして、パネルディスカッションなどを通してこれらの問題を掘り下げてみたい。秋の広島でのコンファレンスに是非参加して、こうした問題を考えてみて欲しい。

会長コラム : 会長講演のあとがき

「田島義博先生と私の流通研究」

守口 剛（早稲田大学）

6月27日と28日の2日間にわたり、慶応義塾大学日吉キャンパスで第38回のコンファレンスが行われた。JACSでは、その年に就任した会長が春のコンファレンスで会長講演を行うことが恒例になっている。私も歴代会長になって、30分の会長講演を行った。

30分という短い時間では多くの話題をとりあげることにはできない。当初私が伝えたいと考えていたことは次の2点であった。その一つは、「研究をすすめる際には、現象の表面だけを見るのではなく、その現象が何故生じているのかというメカニズムを明らかにすることが重要だ」という、故田島義博先生からいただいたアドバイスを元にしたテーマだった。このテーマについて、「抽象の階段」という概念を利用して私なりの考えをお話した。

当初考えていたもう一つのテーマは、「研究者を育てる場の力」というようなものだった。こちらの方は、プレゼンテーションを準備する過程で、自分の中でどんどん話が脱線してしまい、当日も脱線した話に終始してしまった。そこで、この「あとがき」の場をかりて、当初予定していた内容に触れることにしたい。

会長講演は、「1Q83」という、その時に大きな話題になっていた小説から借りてきた題目で行った。これは、私自身の研究者としてのスタートが1983年だったことによる。この年に私は、(財)流通経済研究所に入所し研究者生活をはじめた。

当時の研究所には、3名ほどの大学院生が嘱託研究員という立場で在籍していた（ちなみに、そのうちの一人が当時一橋大学の大学院生だった青木幸弘先生）。当時は、

この他にも多くの若手研究者が研究所に入りしており、研究所のプロジェクトを手伝っていただいたり、共同研究を行ったりしていた。また、学会の部会なども、しばしば研究所で開催した。

これらの多くの研究者との接触によって、私は計り知れないほどの刺激と恩恵を受けた。当時、研究者としてのキャリアが浅かった私が、よりキャリアの長い方々にいろいろなことを教えてもらった、という意味での恩恵ももちろんあった。しかし、そうした直接的かつ一方的なものよりも、多様な研究者が時間と場所を共有することによってもたらされる、相互作用的な効果の方がはるかに大きかったように思う。

研究所を通じて接点のあった当時の若手研究者の方々の多くが、現在では学界の中心的なメンバーとして活躍している。このことは単なる偶然なのかもしれないが、上述した相互作用を通じて研究者が成長する、「場の力」のような働きも少なからずあったのではないかと、私自身は感じている。

研究者を育てる場にはいろいろなタイプがある。ある程度の規模の大学であれば、研究室や研究科が場の役割を果たすだろう。インフォーマルな研究グループが場の役割を果たすこともあるかもしれない。そして、JACSのような若い学会にとっては、特に若手研究者同士の活発な相互作用をもたらすような場を提供することが、重要な使命の一つであるだろうと考えている。

第 38 回 消費者行動研究コンファレンス 開催報告

<統一論題>グローバル消費者とグローバル・マーケティング

去る 2008 年 6 月 27 日、28 日の両日、横浜市の慶應義塾大学大学院経営管理研究科において、第 38 回消費者行動研究コンファレンスが開催されました。

1 日目の午前・午後に設定された自由論題研究報告では、近年の JACS においてすっかり定着した観のある数多くの研究報告が設定され、活発な議論がなされました。

2 日目の統一論題では、午前中に小山諭氏（博報堂）、小野譲司氏（明治学院大学）、高橋徹氏（電通）、川端基夫氏（龍谷大学）の 4 名からのグローバル消費者およびグローバル・マーケティングについての研究報告が行なわれ、午後のシンポジウムにおいて、さらに発展した議論が展開されました。

第 9 回 JACS-SPSS 論文プロポーザル賞のご案内

来たる 10 月 31 日・11 月 1 日に開催されます第 39 回消費者行動研究コンファレンスにおいて、第 9 回 JACS-SPSS 論文プロポーザル賞の受賞者が決定いたします。

この賞は、大学院修士課程在学中または修了後 5 年以内の学会会員を対象としています。既に完了した研究ではなく、これから行われる研究に関するプロポーザルをコンファレンスで発表し、それを評価対象とします。今秋のコンファレンスでは、次の 5 名（順不同・敬称略）による発表が行なわれます。

小森 めぐみ（一橋大学大学院）

感動！その後...：物語への移入経験がタイアップ広告の評価に及ぼす影響

西本 章宏（慶應義塾大学大学院）

ブランド拡張における「適度な不一致」がブランド価値構造に及ぼす影響

横山 宗樹（京都工芸繊維大学大学院）

店舗内空間要因が消費者購買行動に与える影響

山田 尚樹（筑波大学大学院）

葛藤回避と決定延期に関する脳内機構の解明：Tversky and Shafir 理論の脳科学的基礎付け

井上 裕珠（一橋大学大学院）

何だか分からない方が欲しくなる！？：「不確実性の喜び」が購買意欲に及ぼす影響

2008 年度決算報告および 2009 年度予算案

2008 年 6 月 28 日に開催されました役員会での審議を経て、同日開催された会員総会において、2007 年度の決算報告および 2008 年度の予算案が下記のとおり承認・決定されました。ここにご報告いたします。

2008 年度決算報告	
〔収入の部〕	
1. 会費収入（2008 年度分）	5,286,500 円
学術会員	2,690,000 円
学術学生会員	300,000 円
個人賛助会員	185,000 円
法人賛助会員	1,300,000 円
滞納、超過入金等	811,500 円
2. 論文集販売	251,520 円
3. 前年度繰越金	16,063,689 円
合計	21,601,709 円

2009 年度予算案	
〔収入の部〕	
1. 会費収入（2009 年度分）*	5,850,000 円
学術会員	3,690,000 円
学術学生会員	405,000 円
個人賛助会員	255,000 円
法人賛助会員	1,500,000 円
滞納、超過入金等	0 円
2. 論文集販売	0 円
3. 前年度繰越金	19,315,573 円
合計	25,165,573 円

* 2009 年 3 月 31 日現在の会員数より算出

〔支出の部〕	
1. 印刷費	243,750 円
ニューズレター	30,600 円
会員名簿	213,150 円
2. 事務費	1,485,471 円
論文集印刷・発送一式	785,390 円
通信費	211,844 円
Web ホスティングサービス利用費	44,940 円
ホームページ英訳・リニューアル費	0 円
その他	443,297 円
3. 事業運営費	556,915 円
コンファレンス開催校補助費	140,000 円
学会誌作成費（査読謝礼費）	0 円
国際交流事業費	0 円
ワークショップ開催費（開催補助費）	0 円
コンファレンス会場利用代金（前金）	416,915 円
3. 次年度繰越金（論文集作成費他）	19,315,573 円
合計	21,601,709 円

〔支出の部〕	
1. 印刷費	300,000 円
ニューズレター	50,000 円
会員名簿	250,000 円
2. 事務費	4,050,000 円
論文集印刷・発送一式	3,000,000 円
通信費	400,000 円
Web ホスティングサービス利用費	100,000 円
ホームページ英訳・リニューアル費	150,000 円
その他	400,000 円
3. 事業運営費	2,350,000 円
コンファレンス開催費（開催校補助）	200,000 円
学会誌作成費（査読謝礼費）	450,000 円
国際交流事業費	1,000,000 円
ワークショップ開催費（開催補助費）	400,000 円
広報活動費	300,000 円
その他	0 円
4. 予備費（出版システム開発費）	2,000,000 円
5. 次年度繰越金（論文集作成費他）	16,465,573 円
合計	25,165,573 円

上記の通り報告いたします。

事務局担当理事 新倉 貴士 印

上記の報告を適正なものと認めます。

監 事 桑原 武夫 印

学会費の「銀行振込み」についてのお願い

学会費の銀行振込みについて、JACS 事務局よりお願いがあります。「銀行振込」をご利用の場合、大学名や企業名などの「組織名」から入力されますと、振り込みました「個人名」が特定できないというケースが出てきます。「銀行振込」の際には、必ず「個人名」から記入していただきますよう、ご協力をお願い致します。

ご所属・ご住所の変更についてのお願い

ご所属やご住所が変更となる際には、必ず JACS 事務局へご連絡ください。就職や異動などの慌しさが一段落したらで結構ですので、お手数ではございますがよろしくお願い致します。

また、「郵便局の振込用紙」に変更箇所を明記いただく方がおりますが、手続上、データベースの修正は年度末となってしまいます。変更のご連絡は、下記 JACS 事務局までお願い致します。なおホームページからもお手続きいただけますので、ご活用ください。

新入会員の募集について

本学会への入会を希望される方は、ホームページから入会申込書をダウンロードの上、必要事項を記入、捺印の上、事務局まで郵送でお送り下さい。

●入会資格

[学会会員]

消費者行動の研究・教育に従事する大学の専任教員、大学院在籍者（在籍経験者を含む）、およびそれに準ずる者（文部省が学術研究団体と認める学会の正会員、大学の非常勤講師としての教歴を有する者、等）。但し、学会会員 2 名の推薦が必要。

[賛助会員]

本学会の趣旨に賛同する法人および個人。

●年会費

[学会会員] 10,000 円

（但し、大学院生は 5,000 円に減免）

[賛助会員] 個人会員 1 口 5,000 円

法人会員 1 口 50,000 円

●日本消費者行動研究学会(JACS)事務局のご案内●

(事務局) 関西学院大学商学部 マーケティング研究室 (新倉貴士)
〒662-8501 西宮市上ヶ原1-1-155
TEL: 0798-54-6444 FAX: 0798-51-0903 Email: tniikura@kwansei.ac.jp

(事務取扱) 日本消費者行動研究学会 事務取扱
〒150-0012 東京都渋谷区広尾 1-1-39 恵比寿プライムスクエアタワー10F (SPSS 内)
TEL: 03-5466-5520 FAX: 03-5466-5528 Email: jacs@jacs.gr.jp

<JACS Website>

<http://www.jacs.gr.jp/>